

科目名	社会思想史特講	担当者	セイリキ 勢力 ノブマサ 尚雅	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	--------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>21世紀の日本に住む私たちは、日本語で話し考えながらも、西洋で生まれた制度や概念を用いて生活している。空疎な言葉が無責任に弄しないためにも、西洋由来の制度や概念が、どのような社会状況や思考を土壌として生まれ変容を遂げてきたのかを探求する。主に宗教改革前後から、20世紀までの社会思想史の主要な流れを把握し、考察する。</p>		
到達目標	<p>哲学史の流れはもちろんのこと、社会状況や、政治思想、経済思想などとの相関における思考のダイナミズムを捉える思考と表現を探求する。</p> <p>また、古典的な思想は、その時代状況に縛られず、時代を超えた普遍的な力をもつものが大半である。学説史として知識化するのではなく、思想家たちがどんな問いに出会い、どのような思考の道筋をたどって行ったのかを追体験する中で、問いと思考を往還する習慣を身につける。</p>		
学修方法	<p>教科書：坂本達哉著『社会思想の歴史 マキャペリからロールズまで』、チャールズ・テイラー著『<ほんもの>という倫理 近代とその不安』の熟読を通じて、近代の思想と言説がどのように培われ、どのような不安を生み出し、現代に至っているのかを考察する。</p> <p>教科書を熟読すること。多くの思想に触れるので、特に興味を持った思想については、その思想家の一次文献にあたって解釈と対話を試みること。</p>		
スケジュール	<p>基本教材1のレポートは前期に、2のレポートは後期に提出すること。</p> <p>教材1のほうは、基礎的な解説が中心であるが、一次文献や二次文献の紹介がとても詳しい。教科書を熟読しながらレポートの作成を試み、疑問点が何であるかを探してみよう。</p> <p>レポートの作成と添削を通して、修士論文のテーマを決めていく。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	60%	レポートの完成度。着眼点・正確さ・比較考察力・展開力など
	平常評価	40%	レポートの添削やアドバイスへの対応と努力の度合い
履修者への要望	<p>どんな思考も、社会状況や先行する思想の影響をまぬがれることはできない。私たちがどんな時代に生き、どんな制度や概念を受け継いでいるのかを考える基礎力をまずは身につけてほしい。そのために、二冊の教科書を熟読してほしい。教材1は教科書としてはやや大著であるが、文明の帰趨と思想の相関をバランスよくたどった社会思想史の最新の教科書である。取り上げられている思想家は、いずれも熟読に値する人びとなので、教科書を何度も読み返ししながらレポートを作成していただきたい。教材2はラジオ番組をテキストにしたものなので、とても読みやすい。しかし、近代という時代がどのように生まれ、どのような課題を背負っているのかを考えさせられるテキストである。著者のいわんとすることを正確に解釈することを心がけつつも、うのみにせず、テキストと対話しながらレポートを作成してほしい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 坂本達哉 教材名： 『社会思想の歴史 マキャベリからロールズまで』 (名古屋大学出版会, 2014年) ISBN:978-4-8158-0770-2 2,700円+税
	近代と向き合い、格闘し、支えた思想家たちの思考のエッセンスを平易に解説、自由と公共をめぐる思想的遺産を縦横に論じて、現代社会をよりよく考える基盤を指し示す。政治・経済・哲学の枠を超え、近代社会の通奏低音をなす思想の姿を浮かび上がらせた、刺激に満ちた道案内。
参考図書	伊藤邦武著『物語 哲学の歴史 自分と世界を考えるために』(中公新書, 2012年) ISBN:978-4-12-102187-8 900円+税 伊藤邦武著『経済学の哲学 19世紀経済思想とラスキン』(中公新書, 2011年) ISBN:978-4-12-102131-1 840円+税
履修上のポイント	一次文献や二次文献の案内が詳細に出ているので、疑問に思ったことなどは適宜、文献を参照しながら、教科書を熟読すること。
レポート課題 1	マキャヴェリの社会思想、宗教改革の社会思想、古典的「社会契約」思想、フランスとスコットランドの啓蒙思想、ルソーの思想、スミスの思想、哲学的急進主義の社会思想。以上の7つの思想群の中から4つ以上を選び、それぞれが取り組んだ問題や思想の特徴をまとめ、比較考察するなどして自分なりの論考を加えなさい。 留意点： 序章から第7章までを熟読の上、レポートを作成すること。
レポート課題 2	ドイツ観念論、マルクス、J.S. ミル、ヴェーバー、全体主義批判の社会思想、現代リベラリズム。以上の6つの思想群の中から3つ以上を選び、それぞれが取り組んだ問題や思想の特徴をまとめ、比較考察するなどして自分なりの論考を加えなさい。 留意点： 第8章から終章までを熟読の上、レポートを作成すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： チャールズ・テイラー 教材名： 『<ほんもの>という倫理 近代とその不安』(産業図書, 2004年) ISBN:978-4-7828-0140-6 2,500円+税
	文明が発達していくのとは裏腹に、文化や社会が、ある種の没落として経験され始めた「近代」という時代の不安の正体を、17世紀から現代までのさまざまな思想と対話しながら探求する。
参考図書	チャールズ・テイラー著 『自我の源泉 近代的アイデンティティの源泉』 (名古屋大学出版会, 2010年) ISBN:978-4-8158-0648-4 9,500円+税
履修上のポイント	ラジオ番組用に使われたものなので、すらすらと読みやすいが、一文一文、ていねいに吟味しながら読むこと。基本教材1で学んだことや、テイラーが参照している思想家のテキストを参照しながら、テイラーの議論に対して、質問、補足、反論すべき余地を探しながらレポートを作成すること。
レポート課題 1	第1章から第5章までそれぞれの章について、論旨の要約と、質問、補足、反論したいことについての自分なりの論考をまとめなさい。 留意点： 基礎教材1で学んだことやテイラーが言及している思想家のテキストを参照すること。
レポート課題 2	第6章から第10章までそれぞれの章について、論旨の要約と、質問、補足、反論したいことについての自分なりの論考をまとめなさい。 留意点： 基礎教材1で学んだことやテイラーが言及している思想家のテキストを参照すること。